

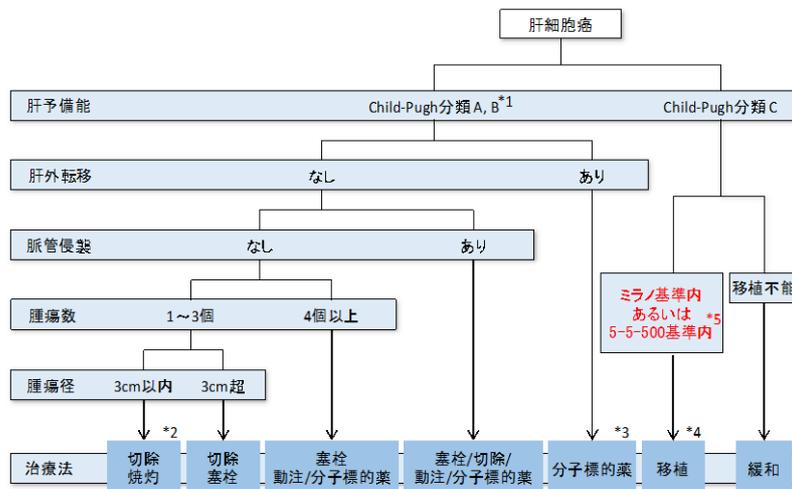
### ③ 肝細胞がんの治療

肝臓内科、外科、放射線科が相談をし、肝臓の治療ガイドラインに沿って肝臓の状態と、肝細胞癌の状態をよく確認して治療法を決定します。

## 肝細胞癌治療アルゴリズム (肝臓診療ガイドライン2017より抜粋)

2019年12月作成  
※赤字は2017年版からの変更点を示す

### 治療アルゴリズム



\*1: 肝切除の場合は肝障害度による評価を推奨

\*2: 腫瘍数1個なら①切除, ②焼灼

\*3: Child-Pugh分類Aのみ

\*4: 患者年齢は65歳以下

\*5: 遠隔転移や脈管侵襲なし, 腫瘍径5cm以内かつ腫瘍数5個以内かつAFP 500ng/mL以下

治療法には、根治的治療（癌をゼロにする治療）と姑息的治療（癌を減らす、維持する）があります。

## 肝細胞癌の治療法

### 根治的治療(癌をゼロにする)

#### 外科的加療

#### 局所療法

ラジオ波焼灼療法(RFA)

エタノール局注療法(PEIT)

マイクロ波凝固療法(MCT)

### 姑息的治療(癌を減らすor維持する)

#### 肝動脈塞栓術(TACE)

#### リザーバー肝動注療法

#### 放射線療法

#### 抗癌剤治療(分子標的薬)

代表的な治療方について説明します。

\*それぞれの項目ボタンから詳細な説明ページにジャンプします↓

1. 外科的治療

2. ラジオ波焼灼療法(RFA)

3. 肝動脈塞栓術(TACE)

4. 抗癌剤治療(分子標的薬)